

## 第 27 回日智経済委員会 概要報告

1. 開催日時：平成 22 年 11 月 15 日（月）午前 9 時～午後 12 時 10 分
2. 開催場所：東京會館 9 階「ローズ・ルーム」
3. 出席者：総勢 204 名  
（日本側）佐々木幹夫委員長（三菱商事㈱取締役相談役）はじめ 144 名  
（チリ側）ロベルト・デ・アンドラカ委員長（太平洋製鉄会社会長）はじめ 60 名

### 4. 総括的概要：

日智経済委員会日本国内委員会とチリ国内委員会は、セバスチャン・ピニェラ・チリ共和国大統領が横浜 APEC 首脳会談のために訪日した機会に、第 27 回日智経済委員会を東京にて開催した。今次会議はオープンセミナー形式として一般人の参加を得て開催した。10 月に起きたチリでの鉱山落盤事故で閉じ込められた鉱夫 33 名の奇跡の救出劇が世界中の耳目を集めた直後の開催で、チリへの関心が高く、さらには日本の最新技術をベースとしたスマートコミュニティや地上デジタル TV 分野におけるビジネス機会の紹介が関心を集め、半日に短縮された会議ではあったが、多数の参加者のもと盛会裡に日程を終えた。

### 5. セッション別概要

#### （1）開会式

開会式では菅首相の祝辞とパトリシオ・トーレス駐日大使の挨拶をいただいた。その後アンドレス・コンチャ・チリ産業振興協会（SOFOFA）会長が「世界金融危機後のチリ経済」をテーマに特別講演をし、リーマンショックや大地震にも拘わらず V 字回復を遂げているチリの経済状況を紹介した。

#### （2）第 1 回全体会議

「日智間の貿易・投資拡大への課題と展望」をテーマに JETRO の林康夫理事長が中南米全体の経済展望とチリ経済、地震早期警戒システムを基にした両国共同事業、日智租税条約の早期締結の必要性等について述べた。マヌエル・アゴシン・チリ大学経済学部長は日本とチリの経済関係の現状と展望ならびに日本の技術に由来するビジネスの重要性を示した。



会場の様子



デ・アンドラカ委員長



佐々木委員長



開会式

### (3) 第2回全体会議

パネルディスカッション形式で、経済産業省情報経済課の松田洋平課長補佐がスマートコミュニティ、総務省国際経済課の岡野直樹課長が地上デジタルTV、マルセロ・アウド・アントファガスタ鉱業(株)会長が鉱山での共同事業、アグロスベル(株)のホセ・グスマン社長が食肉と環境エネルギーをテーマにそれぞれショートプレゼンテーションを行い、その後、将来の日智間のビジネスポテンシャルについてパネルディスカッションを実施した。



パネルディスカッション

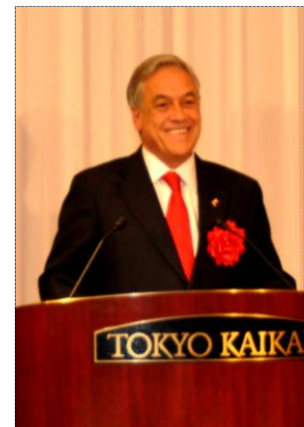
### (4) 閉会式

日智租税条約の早期交渉入りにかかる要望等を含む共同コメントが発表され、採択された。

## 5. その他

セバスチャン・ピニェラ大統領歓迎昼食会（於：東京會館 12階「ロイヤルルーム」）

会議に引続き開催された昼食会にはチリ政府より、セバスチャン・ピニェラ大統領、アルフレド・モレノ外務大臣、ローレンス・ゴルボン鉱業大臣、チリ共和国国会議員、パトリシオ・トーレス駐日チリ大使他、民間側より、両国経済界要人など、総勢150名が参加した。佐々木委員長による歓迎挨拶では、落盤事故からの奇跡の救出に対する大統領のリーダーシップに話がおよぶと、参加者全員から賞賛の拍手が沸き起こった。大統領は映像とパワーポイントを使って講演し、チリの安定した政治と堅調な成長を続けている経済を説明し、本年1月のOECD加盟を契機として経済のさらなる成長をはかりチリを名実兼ね備えた先進国に導くとの強い意志を、卓越したプレゼンテーション能力を持って表明した。昼食会はその後和やかな雰囲気の中で懇親・交流が行われた。



ピニェラ大統領



大統領への記念品贈呈



昼食会場の様子

以上